

# 令和4年度 栄小学校 校内研修 全体構想図

## 「学校教育目標」

明るく元気な子 よく考え自ら学ぶ子 自分や友達を大切にできる子 ねばり強くがんばる子

## 「学校経営方針」

一つ上を目指そうとする 他者と積極的にかかわろうとする 社会とのかかわりを意識しようとする

## 「令和3年度 全国学力・学習状況調査 標準学力調査」分析からの児童の課題

・内容の中心となる事柄を把握する ・中心となる語や文を見つけて要約する ・場面から数量関係を捉えて正しく除法の式に表し計算する ・自分の言葉で文章を記述する



【令和4年度 研究主題】 「思考力・判断力・表現力」を育む、ICTを活用した授業作り  
～ 「教える」から「自ら学ぶ」へのアップデート～



ICT学習指導案	帯広市立栄小学校	4学年	算数科
単元名	がい数の使い方と表し方	授業者：2組	担任 石垣 雄太
小単元	がい数を使った計算	使用アプリ	Classroom

本時の「評価規準」【思考力・判断力・表現力】  
がい数の用い方について、目的に応じた違いを比較しながらノートに考えを書いている。

学習展開	アナログとデジタルの活用
1 問題文を読む。 兄さんとお母さんの買い物の仕方の違いはどこだろう。 兄さん：「1000円で足りるかな。」 お母さん：「1000円こえるかしら。」	1 スライドの写真見て、問題をイメージしやすいようにする。 
2 課題を考える。 見積りの仕方の違いを考えよう。	2 課題をノートに書く。
3 2人の見積りの仕方の違いをノートに書く。 ・兄さんは、～ ・お母さんは、～に続けて書く。	3 自分の考えをノートに書く。
4 クラスルームのストーリーに自分の考えを書く。 ・兄さんは、多めに見積もりをして買い物をしている。 ・お母さんは、少なめに見積もって買い物をしている。	4 クラスの意見を可視化して、自分の考えの参考にしている。 
5 学習グループで考えの交流をする。	5 ノートとタブレットを使いながらグループで交流をする。
6 全体で発表をする。	
7 本時の振り返りをする。 キーワード「これからは」「買い物」「がい数」を入れた文章で書く。	7 ノートを回収し、評価の対象とする。

「振り返り」の工夫  
キーワードで振り返りを考え、学んだことを今後の自分の生活にどのように生かしたいと感じたか書く。

授業者より（実践してみても）

ねらう

**仮説1 評価規準(思・判・表)から考える授業設計**  
(1)思・判・表を意識して授業をしましょう。  
(2)評価規準をもとに授業設計をして、授業の柱を明確にしましょう。  
(3)評価基準を明確にしましょう。

活用する

昨年度の実践を生かした「思考力・判断力・表現力」を育むICT教材

**仮説2 振り返りでアウトプットする方法を工夫**  
(1)キーワードを自分でつなげて、わかったことを書く。  
(2)自己変容について書く。  
(3)新たな問いを書く。

表現する

**全体研修**

- (1) 主題と仮説の提案
- (2) 提案授業（2本）
- (3) デジタルドリル 持ち帰りについて

**グループ研修**

- (1) 日常の実践交流
- (2) ICT 学習指導案の作成
- (3) 実践発表の準備

**実践発表会**

- (1) 全員1授業の公開
- (2) ICT 学習指導案の検討

令和3年度【使う・慣れる】  
一人一実践で、全職員が活用した

令和4年度【目的の焦点化】  
タブレット＝道具・手段としての活用

## 知識・技能

何を理解しているか・何ができるか

## 思考力・判断力・表現力等

知識・技能をどのように活用するか  
考え・判断し・表現する力

## 学びに向かう力、人間性等

人生や社会に生かそうとする

**仮説1** 思・判・表に焦点化した評価規準をもとに、ICT を活用した授業設計をすることにより、知識・技能をどのように活用するか考え、判断し、表現する力を育むための教師の授業改善ができるだろう。

**仮説2** 思・判・表に焦点化した ICT を活用した学習活動を通して、振り返りでアウトプットする場면을工夫することにより、知識・技能をどのように活用するか考え、判断し、表現する力を育むことができるだろう。

### 仮説1の解説（主語は教師）

#### ① 思・判・表に焦点化した評価規準

「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力は単元を通して育成するため、「思考力・判断力・表現力」を焦点化するには、**単元を見通す**ことが必要であると考え。




#### ② 評価規準をもとに授業設計

評価規準を最初に考えて授業を設計することにより、**本時の問題や課題、学習活動、振り返りまでの柱**が明確になると考える。また**評価基準**が明確になり、子どもの力を見取ることができる。

#### 仮説1のゴール

#### ③ 教師の授業改善

単元を見通しながら3つの資質・能力を意識することと、評価規準をもとに授業設計をすることにより、知識を教えることを重視した指導から、**知識の活用法を教える（学び方を教える）**指導への転換ができる。

ICT学習指導案	帯広市立栄小学校	4 学年	算数科
単元名	がい数の使い方と表し方	授業者	2 組 担任 石垣 雄太
小単元	がい数を使った計算	使用アプリ	Classroom 
本時の「評価規準」【思考力・判断力・表現力】 がい数の用い方について、目的に応じた違いを比較しながらノートに考えを書いている。			
学習展開	アナログとデジタルの活用		
1 問題文を読む。 兄さんとお母さんの買い物の仕方の違いはどこだろう。 兄さん：「1000円で足りるかな。」 お母さん：「1000円こえるかしら。」	1 スライドの写真見て、問題をイメージしやすいようにする。 		
2 課題を考える。 見積もりの仕方の違いを考えよう。	2 課題をノートに書く。		
3 2人の見積もりの仕方の違いをノートに書く。 ・兄さんは、～ ・お母さんは、～に続けて書く。	3 自分の考えをノートに書く。		
4 クラスルームのストリームに自分の考えを書く。 ・兄さんは、多めに見積もりをして買い物をしている。 ・お母さんは、少なめに見積もって買い物をする。	4 クラスの意見を可視化して、自分の考えの参考にする。 		
5 学習グループで考えの交流をする。	5 ノートとタブレットを使いながらグループで交流をする。		
6 全体で発表をする。			
7 本時の振り返りをする。 キーワード 「これからは」「買い物」「がい数」を入れた文章で書く。	7 ノートを回収し、評価の対象とする。		

「振り返り」の工夫  
キーワードで振り返りを考え、学んだことを今後の自分の生活にどのように生かしたいと感じたか書く。

### 仮説2の解説（主語は子ども）

#### ④ 思・判・表に焦点化した

#### ICTを活用した学習活動

「思考力・判断力・表現力」を育むためには、**ジャムボードやスプレッドシートなどで、考えを可視化・共有する教材**を活用することが有効である。

#### ⑤ 振り返りでアウトプットする場面の工夫

文字言語で、**①何がわかったのか、②自分にどんな変化があったのか、③どんな疑問が生まれたのか**を表現する場を設定することで、知識・技能をどのように活用するか**表現する力**がつかう。

#### 仮説2のゴール

#### ⑥ 子どもの「思考力・判断力・表現力」の育成

ICTの活用をベースに、導入・展開・終末部分での「思考力・判断力・表現力」の育成について先に述べた①～⑤の仮説を実現することにより、子どもに「思考力・判断力・表現力」を育むことができる。

問い・課題(思考)

考える(思考)

共有する(表現)

考えをもつ(判断)

振り返る(表現)

ICTの活用を通して(栄小のストロングポイント)